



青女家行動委員会

発責 谷澤由紀恵
編責 木村洋希

青女家中央総行動 開催！ コロナ禍であっても、自ら考え行動しよう！

一昨年から続き未だ猛威をふるい続けている新型コロナウイルス感染症の影響、組合員への安全配慮の観点からも2年間、青年・女性・家族中央行動の取り組みを中止してきました。しかし、私たち自身何もせずに立ち止まっているわけにはいきません。自らが考え、動きを作るとし、今年よりモーターを取り入れ、離れていても意思統一を図る事、学習することを目的とし、開催しました。

加藤副女性部長の開会のあいさつで始まり、谷澤実行委員長のあいさつに続き、第一部は『春闘とは』のテーマで佐藤弁護士より講演をいただき、第二部は、神奈川県地区本部の長瀬委員長より『神奈川県地区本部青年部結成の取り組み』について講演をいただきました。

『春闘』について学ぶ中で我々『国労』が戦後の日本の労働運動に深く関わっている事を知りました。その運動を牽引してきた諸先輩の取り組み、真に団結することに数々の弾圧がある中でも決して屈することのなかった闘いの歴史にも触れていただきました。

第二部では、我々が直面している組織問題に焦点を当てて報告をいただきました。国鉄分割民営化以降は組織人員が減る一方で、地本単位でも青年部を組織できない機関が多数あり、そんな中でも神奈川県地区本部では今年1月15日に『神奈川県地区本部青年部結成大会』を開催し、全国にその存在を示しました。結成に至るまでの取り組みや長瀬委員長の思いなどを報告いただきました。『神奈川県地区本部青年部結成』に一定数の青年部員が増えてきたから立ち上げたわけではない。自分が委員長に選出された時から青年部結成を描いていた。笑う人もいたが、やれることは何でもやり、諦めずに継続して取り組んできたから結成に至った」と、報告されました。

本都青年部常任委員の工藤さんより春闘に対する決意表明がなされ、木村事務局長から「『春闘とは』単なる賃上げ要求、労働条件、労働環境改善要求ではなく、国労の歴史そのものである。

諸先輩の思いや、継承した運動を次の世代に託していかなければならない。『国労運動は職場での対話である』、我々は学習を積み重ね、職場で対話をする中で諸先輩より引き継いだ組織を維持・拡大することが重要である。見据える到達点として第二、第三の神奈川県地区本部を自分達の手で築いていくことを全体で確認して行こう。」と、まとめを行い、最後は団結ガンパローで散会しました。

新型コロナウイルスの蔓延に伴って、2年間開催することができなかった青女家中央総行動ですが、本日オンラインも併用する形で、仲間が結果できたことを嬉しく思います。また青女家中央総行動を実施するに当たって、全国の組合員の方々にから激励のカンパをいただきました。本当にありがとうございました。

コロナ禍の下で、新自由主義の矛盾がより鮮明になっています。日本の労働者の実質賃金は、コロナ以前から20年以上にわたって下がり続けてきました。世界でもまれにみる状況です。その一方で富裕層の資産や大

実行委員長あいさつ

企業の内部留保は増え続けてきました。コロナ禍において非正規労働者、女性など弱い立場にある人が苦境に立たされています。今こそ、大幅賃上げが必要です。そのためには労働者が団結し、要求を掲げて闘うこと。労働組合が力を発揮する時です。

労働組合に加入し活動することは、憲法第28条や労働組合法で基本的人権として保障されており、ごく当たり前のことです。学習や実践を通じて学び、組合活動に確信を持ち、仲間を増やし、要求実現のために闘っていきましょう。

参加者の感想

teamsを活用してのことで、web上の情報の共有が見やすくてわかりやすかったです。

神奈川県地区本部の青年部が新しくできて、若い仲間が増え始めている事を実感しました。

大変な事も多いと思いますが、これからも共に頑張りましょう！

全国の仲間のみなさん
カンパへのご協力
ありがとうございました☆

